

第2回 北海道森林管理局国有林材供給調整検討委員会

(概要)

先般開催した、平成27年度 第2回北海道森林管理局国有林材供給調整検討委員会の概要について次のとおりお知らせします。

1. 日時

平成27年9月18日(金曜日) 13時30分～15時30分

2. 会場

北海道森林管理局 3階 大会議室

3. 検討結果

道内の木材需給状況や各委員の発言を踏まえ、現時点で国有林材の供給調整を行う必要はないとの意見集約が得られた。

4. 主な意見

- トドマツについては、夏以降道内外の合板工場の需要が高まり、なんとなく下支えが出来てきた。加えて、輸入製材の納期が遅れて欠品が出ている状態となり、羽柄材の工場に注文が入ってきつつある。価格はパツとしないが量的には少しづつ流れ出したと聞いているところ。
- トドマツ製材については、7・8月の荷動きはあまり良くなかったが、ある程度長めの納期をとっていたものが早く欲しいという注文が入り始めており、10月に向けては回復してくるものと期待。しかし、その先については、まだ不透明感があるので、今後の需給動向を注視していくことが重要。
- カラマツについては、輸出向けの梱包材やパレットの使用率が6月から前年対比90%となっている。毎日4時間残業していたが、今は平常どおりの稼働になっている。受注残が2～3日分という水準。各社2～3か月分の製材在庫を持っている状況であり、昨年から見ると動きが悪い。
- Lチップ原料については、不足しており原木の在庫も非常に少ない。単に価格だけではなく出材量が少ないという事で各社とも心配している状況。
- バイオマス発電については、プラントの施工の進捗に伴い、原料の集荷も本格化している。運材車不足への対応として船で海上輸送する動きや原料の安定的な集荷策として道外からのチップの移入、海外からのPKSの輸入の動きがある。

- 9月中旬時点では、川下関係の勢いが弱く低迷感が漂っている。地域差はあるものの、加工工場の原木在庫が前年比で2、3割増えているという状況。ただ、現状では供給調整をするまでには至っていない。

- 現状は、それほど需要はひっ迫していない。バイオマスを含めて需要は見込まれるものの、素材生産者側では、どんどん機械を導入し人員を増やそうかという動きはあまり見えておらず、様子を見ている感じである。